

Prof. Dr. Hiroko Masumoto: Publikationsliste

Monographien

1. 『迷宮のドラマトゥルギーーフリードリヒ・デュレンマットの喜劇』(単著)、1998年、三修社、全293頁
2. 『フリードリヒ・デュレンマットの喜劇』(単著、前掲書の増補版)、2003年、三修社、全363頁

Herausgegebene Sammelbände

1. 『スイスと日本—日本におけるスイス受容の諸相』(共著)、森田安一編、2004年、刀水書房、全314頁(第10章「現代日本におけるスイス・ドイツ語文学の受容」241-256頁の執筆と、第11章ジモーネ・ミュラー「芹沢光治良の短篇小説『ブルジョア』」257-278頁および第13章エドゥアルト・クロッペンシュタイン「スイスをめぐる俳句旅行」—江國滋『スイス吟行』と俳人鷹羽狩行について」293-310頁の翻訳を担当)
2. *Ästhetik der Dinge / Diskurs der Gewalt* (Hg.), München: Iudicium, 2013.

Aufsätze

1. Heinrich Heine in der Vormärzzeit. In: TREFF-PUNKT-SPRACHE Nr. 2, hrsg. vom Deutschen Seminar der Uni Hiroshima, 1984, S. 86-99.
2. Heines Vorstellung einer deutschen Revolution in „Zur Geschichte der Religion und Philosophie in Deutschland“ In: TREFF-PUNKT-SPRACHE Nr.3, hrsg. vom Deutschen Seminar der Uni Hiroshima, 1985, S. 33-46.
3. Subjektivität und Objektivität in Grillparzers Novelle „Der arme Spielmann“ In: TREFF-PUNKT-SPRACHE Nr.4, hrsg. vom Deutschen Seminar der Uni Hiroshima, 1986, S. 49-59.
4. 職業作家としてのH.ハイネ—テーマ選択の問題をめぐって、TREFF-PUNKT-SPRACHE Nr.5 (広島大学ドイツ語学ドイツ文学研究室編) 1987年、11-18頁
5. Kunstballade の歴史の中で Heinrich Heine の占める位置、『ドイツ文学論集』第20号(日本独文学会中国四国支部編) 1987年、24-29頁
6. H.ハイネの „Schlachtfeld bei Hastings“ における二重の批判、姫路獨協大学外国語学部紀要第1号、1988年、25-48頁
7. H.ハイネのバラードにおける幽霊のモチーフ、『ドイツ文学論攷』第30号(阪神ドイツ文学会編) 1988年、43-64頁
8. 転換期のバラードとしての „Ritter Olaf“ —「玉座と祭壇」の同盟に対するH.ハイネの批判、姫路獨協大学外国語学部紀要第2号、1989年、25-45頁
9. 具体詩のドイツ語授業への導入、『広島ドイツ文学』第5号(広島独文学会編) 1990年、

49-63 頁

10. 新しい時代への不安— „An die Weltverbesserer“ における A.v. ドロステ＝ヒュルスホフの時代批判、『広島ドイツ文学』第 6 号（広島独文学会編）、1991 年、1-16 頁
11. 推理小説からアンチ推理小説へ—F.デュレンマットによる「推理小説へのレクイエム」、姫路獨協大学外国語学部紀要第 6 号、1993 年、76-93 頁
12. グロテスクな悲劇としての喜劇—F.デュレンマットの喜劇観、『ドイツ文学論攷』第 36 号（阪神ドイツ文学会編）、1994 年、21-40 頁
13. F. デュレンマットの未発表作『バベルの塔の建設』について、好村富士彦教授退官記念論文集、1995 年、129-137 頁
14. F. デュレンマットの短篇小説『故障』について—グロテスクを手がかりにして、『ドイツ文学』第 97 号（日本独文学会編）1996 年、102-112 頁
15. 鏡の中のテーセウス—デュレンマットの『ミノタウロス』について、姫路獨協大学外国語学部紀要第 13 号、2000 年、82-97 頁
16. 循環する物語としての『混迷の谷』—デュレンマットの最後の小説と初期作品との関連について、『ドイツ文学論攷』第 42 号（阪神ドイツ文学会編）2000 年、1-18 頁
17. 「イローニッシュな主人公」としてのソクラテス—デュレンマットの『加担者』と『ソクラテスの死』、姫路獨協大学外国語学部紀要第 14 号、2001 年、67-82 頁
18. フリッシュとデュレンマット—『万里の長城』と『物理学者たち』の比較を中心に、姫路獨協大学外国語学部紀要第 15 号、2002 年、157-171 頁
19. 『ホモ・ファーベル』とオイディプス神話、姫路獨協大学外国語学部紀要第 16 号、2003 年、127-143 頁
20. Die Rezeption der deutschschweizerischen Literatur im gegenwärtigen Japan. In: Asiatische Studien. Zeitschrift der Schweizerischen Asiengesellschaft. LVIII-2 (2004), S. 467-478.
21. 哲学的ジャンルとしての推理小説—デュレンマットの推理小説について、『独語独文学研究年報』第 31 号（北海道大学ドイツ語学・文学研究会編）、2004 年、232-244 頁
22. スイス・ドイツ語文学を読むための基礎知識、杉谷眞佐子・高田博行・浜崎桂子・森貴史編著『ドイツ語が織りなす社会と文化』、2005 年、関西大学出版部、351-365 頁
23. Das Bild des Wissenschaftlers in den Werken Dürrenmatts. In: Neue Beiträge zur Germanistik, hrsg. von der Japanischen Gesellschaft der Germanistik, Band 4, Heft 6 (2005), S.87-102.
24. Der Deutschkurs im Radio: seine Aufgaben und Spezifik, 姫路獨協大学外国語学部紀要第 19 号、2006 年、15-25 頁
25. „Friedrich Dürrenmatt liest Yasushi Inoue“: Zum Vortrag Dürrenmatts über den japanischen Schriftsteller. In: Harald Meyer (Hg.): Wege der Japanologie. Festschrift für Eduard Klopfenstein. Zürich, Münster; LIT, 2008, S. 247-263.
26. スイスにおける多言語・多文化主義、神戸大学文学部紀要第 37 号、2010 年、17-33 頁
27. Erkenntnistheoretische Überlegungen im Spätwerk Dürrenmatts. In: Akio Ogawa, Kazuhiko

- Tamura, Dieter Trauden (Hg.): *Wie alles sich zum Ganzen webt. Festschrift für Yoshito Takahashi zum 65. Geburtstag.* Tübingen; Stauffenburg, 2010, S.89-102.
28. ペーター・ビクセルのスイス論、『DA』(神戸大学ドイツ文学会編)第8号、2011年、21-38頁
 29. Eine noch mögliche Geschichte? Erkenntnisproblematik und Darstellbarkeit der (Auto-)Biographie im Spätwerk Dürrenmatts. In: *Dogilmunhak. Koreanische Zeitschrift für Germanistik* (hg. von der Koreanischen Gesellschaft für Germanistik) Bd.120, Heft 4 (2011), S.73-91.
 30. 言語への懐疑とコミュニケーション不全—ホフマンスタール、カフカ、デュレンマツト、『DA』(神戸大学ドイツ文学会編)第9号、2013年、71-79頁
 31. Кризис языка и невозможность коммуникации: Гофмансталь, Кафка, Дюрренматт. In: Kornelija Icin; Kayoko Yamasaki (eds.) *Ex Oriente Lux: Japanese Culture and We.* Belgrade 2014, pp. 143-149. (論文30のロシア語訳)
 32. 監獄としてのスイス—最晩年の講演に見られるデュレンマツトのスイス批判—、『DA』(神戸大学ドイツ文学会編)第10号、2014年、59-68頁
 33. Лодка переводчика: несколько замечаний по теме «перевод и адаптации». In: Куми Татэока, Валерий Гречко, Юика Китамура (ed.): *Найдено при переводе: Трансформация, адаптация и межкультурный трансфер.* Belgrade 2015, pp. 90-100. (Co-Autor: Валерий ГРЕЧКО)
 34. 1940年代のデュレンマツトの文学活動と精神的国土防衛、日本独文学会研究叢書 117 (葉柳和則編『チューリヒ劇場と文化の政治』)、2016年、81-97頁
 35. Die Aatombombe als Topos in der deutschsprachigen und japanischen Literatur. In: Teruaki Takahashi, Yoshito Takahashi (Hg.): *Japanisch-deutsche Diskurse zu deutschen Wissenschafts- und Kulturphänomenen.* Paderborn: Wilhelm Fink, 2016, S. 191-205.
 36. Intertextualität als poetische Strategie: Zur Analyse der Gedichte Volker Brauns. In: Henrieke Stahl, Hermann Korte (Hg.): *Gedichte schreiben in Zeiten der Umbrüche. Tendenzen der Lyrik seit 1989 in Russland und Deutschland.* Leipzig: Biblion Media, 2016, S. 259-266.
 37. 文学的素材としての「迷宮」—デュレンマツト作品を貫くアリアドネーの糸—、『DA』(神戸大学ドイツ文学会編)、第12号、2017年、19-35頁

Essays

1. ブレヒトをめぐる女性たち、姫路獨協大学女性学論考第1号、1994年、21-32頁
2. フリードリヒ・デュレンマツトの遺稿について、『ドイツ文学論攷』第37号(阪神ドイツ文学会編)、1995年、141-145頁
3. 孤独なスイス人、『広島ドイツ文学』第10号(広島独文学会編)、1996年、95-96頁
4. デュレンマツトの『約束』とショーン・ペンの「プレッジ」、*Neue Beiträge zur Germanistik*

- (日本独文学会編) Bd. 1, Heft 2 (2002)、303-306 頁
5. 続・学会の活性化をめざして、『ドイツ文学論攷』第 45 号 (阪神ドイツ文学会編) 2003 年、159-163 頁
 6. モスクワのメフィストーフェレス—ゲーテの『ファウスト』とブルガーコフの『巨匠とマルガリータ』、『ペリひて』第 45 号 (日本ゲーテ協会編)、2004 年、7-9 頁
 7. シュプレー河畔のオデッサ、『らてるね』93 号 (同学社)、2005 年、15-17 頁
 8. テクスト文法と関連分野—文学研究および教授法、日本独文学会研究叢書 036 号 (植木迪子編「テキスト文法が拓く地平」)、2005 年、49-64 頁
 9. 多言語・多文化の国スイス、日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト」研究領域 V-I「伝統と越境—とどまる力と越え行く流れのインタラクション」第 2 グループ「越境と多文化」研究報告集 No. 2、『『国』という枠を離れて』、2006 年、3-9 頁
 10. 翻訳という越境、沼野充義編『芸術は何を超えていくのか?』、東信堂、2009 年、140-151 頁 (共著者: ヴァレリー・グレチュコ)
 11. 名作に原書でチャレンジ 1-12、NHK テレビテキスト「テレビでドイツ語」2009 年 10 月号~2010 年 9 月号 (NHK 出版) に連載
 12. スイスの国民投票から見えてくるもの、『DA』(神戸大学ドイツ文学会編) 第 7 号、2010 年、31-39 頁
 13. Die Schweiz – ein ideales Beispiel der multikulturellen Gesellschaft? In: Ryozo Maeda (Hg.): Transkulturalität. Identitäten in neuem Licht. Dokumentationsband der Asiatischen Germanistentagung 2008. München; Iudium, 2012, S. 264-269.
 14. Die ostasiatische Tradition des Lernens. Eine etymologische Überlegung mit einem Beispiel aus Lun-yu. In: Harald Schwaetzer (Hg.): Bildung und Fragendes Denken. (Coincidentia. Zeitschrift für europäische Geistesgeschichte. Beiheft 2.) Bernkastel-Kues 2013, S. 111-116.
 15. スイス—ウィリアム・テルの末裔の国、宮田眞治・畠山寛・濱中春編『ドイツ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2015 年、44-47 頁
 16. さまざまなテキストが織りなすタペストリー—『天使バビロンに来たる』の間テキスト性、『ふじのくに・せかい演劇祭 2015 公式ガイドブック』(SPAC 静岡県舞台芸術センター編)、38-40 頁
 17. スイスの直接民主主義、NHK ラジオテキスト「まいにちドイツ語」2017 年 6 月号 (NHK 出版)、62-63 頁

Buchbesprechungen

1. Gerhard Neuner, Hans Hunfeld: Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts (Langenscheidt 1993)
ドイツ語教育第 4 号 (日本独文学会ドイツ語教育部会編) 1999 年、130-136 頁

2. 三谷研爾（編）『ドイツ文化史への招待—芸術と社会のあいだ』、大阪大学出版、2007年
『ドイツ文学論攷』第49号（阪神ドイツ文学会編）2007年、82-84頁
3. 葉柳和則『経験はいかにして表現へともたらされるのか—M.フリッシュの「順列の美学」』、鳥影社、2008年
Neue Beiträge zur Germanistik（日本独文学会編）Band 8, Heft 2 (2009)、194-197頁
4. フリードリヒ・デュレンマット『疑惑』平尾浩三訳、同学社 2013年
図書新聞 3152号（2014年3月29日）、第4面
5. フリードリヒ・デュレンマット『約束』平尾浩三訳、同学社 2016年
図書新聞 3266号（2016年8月6日）、第1面

Übersetzungen

1. ルート・ベアラウ著『ブレヒト 私の愛人—ライ-トゥは語る』、晶文社、1989年、全441頁、（共訳者：好村富士彦）
Ruth Berlau: Brechts Lai-Tu. Erinnerungen und Notate. Luchterhand 1985.
2. ペーター・ブリックレ著『ドイツの宗教改革』、教文館、1991年、全406頁（共訳者：田中真造）
Peter Blickle: Reformation im Reich. UTB 1982
3. ハラルト・ヴァインリヒ著『テキストからみたドイツ語文法』三修社、2003年、全1152頁（監修：脇阪豊、共訳者：植木迪子他、第6章(535-601頁)を担当）
Harald Weinrich: Textgrammatik der deutschen Sprache. Duden 1993.
4. ダニイル・ハルムス「トルボチュキン教授」「アマデイ・ファラドン」「うそつき」「おとぎ話」「ある男の子に尋ねました」、『飛ぶ教室』第8号（2007年1月）、光村図書出版、42-67頁（共訳者：ヴァレリー・グレチュコ）（柴田元幸編『昨日のように遠い日』文藝春秋、2009年、37-75頁に再録）
4-14: kurze Geschichten von Daniil Charms, übersetzt vom Russischen ins Japanische, zusammen mit Valerij Gretchko
5. ダニイル・ハルムス「動物園で」、『飛ぶ教室』第10号（2007年7月）、光村図書出版、60-64頁（共訳者：ヴァレリー・グレチュコ）
6. ダニイル・ハルムス「ひとりの男がいた」「関係」「目の錯覚」「おじいさんの死」、『モンキー・ビジネス』vol.1（2008年4月）、柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス、240-246頁（共訳者：ヴァレリー・グレチュコ）
7. ダニイル・ハルムス「朝」、『モンキー・ビジネス』vol.2（2008年7月）、柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス、324-330頁（共訳者：ヴァレリー・グレチュコ）
8. ダニイル・ハルムス「心の準備のできていない人が突然新しい考えに出会ったときにどうなるかを示す四つの例」「レジ係」「講義」、『モンキー・ビジネス』vol.3.5（2008

年 11 月) 柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス、210-217 頁 (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)

9. ダニエル・ハルムス「邪魔」「眼に小石の刺さった、背の低い紳士が...」「マシュキン
はコシュキンを殺した」、『モンキー・ビジネス』vol.4 (2009 年 1 月)、柴田元幸責任編
集、ヴィレッジブックス、200-207 頁 (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
10. ダニエル・ハルムス「指物師クシャコフ」「転落」「多面的な診察」
『モンキー・ビジネス』vol.5 (2009 年 4 月) 柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス
pp.334-341. (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
11. ダニエル・ハルムス「みんなお金が好き」「数学者とアンドレイ・セミョーノヴィチ」
「歴史上のエピソード」
『モンキー・ビジネス』vol.6 (2009 年 7 月) 柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス
pp.250-257. (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
12. ダニエル・ハルムス「親愛なるニカンドル・アンドレエヴィチ」「マカーロフとペーテ
ルセン」「最近、店で売られているもの」
『モンキー・ビジネス』vol.7 (2009 年 10 月) 柴田元幸責任編集、ヴィレッジブックス
pp.314-319. (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
13. ダニエル・ハルムス「狩人」「イヴァン・ヤーコヴレヴィチ・ボーボフ」「私は塵を舞
い上げた」、『モンキー・ビジネス』vol.8 (2010 年 1 月) 柴田元幸責任編集、ヴィレ
ジブックス、338-346 頁 (共訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
14. ダニエル・ハルムス『ハルムスの世界』2010 年、ヴィレッジブックス、全 238 頁 (共
訳者: ヴァレリー・グレチュコ)
15. フリードリヒ・デュレンマット『失脚／巫女の死 デュレンマット傑作選』光文社、
2012 年、全 325 頁
Erzählungen von Friedrich Dürrenmatt
16. フリードリヒ・デュレンマット『デュレンマット戯曲集第 1 巻』鳥影社、2012 年、全
684 頁 (共訳者: 山本佳樹、葉柳和則、香月恵里、木村英二、『ロムルス大帝』の翻訳
(265-392 頁) と解題 (651-655 頁)、および「訳者あとがき」(664-682 頁) を担当)
Friedrich Dürrenmatt: Romulus der Große
17. フリードリヒ・デュレンマット『デュレンマット戯曲集第 2 巻』鳥影社、2013 年、全
684 頁 (共訳者: 市川明、山本佳樹、木村英二)、『フランク五世』の翻訳 (153-302 頁)
と解題 (662-666 頁) を担当
Friedrich Dürrenmatt: Frank der Fünfte
18. フリードリヒ・デュレンマット『デュレンマット戯曲集第 3 巻』鳥影社、2015 年、全
662 頁 (共訳者: 葉柳和則、香月恵里、市川明)、『加担者』の翻訳 (135-240 頁) と解
題 (562-567 頁)、解説「デュレンマットの演劇論」(580-587 頁)、訳者あとがき (660-662
頁) を担当)

Friedrich Dürrenmatt: Der Mitmacher

19. ミハイル・ブルガーコフ『犬の心臓・運命の卵』新潮社、2015年、全383頁（共訳者：ヴァレリー・グレチュコ）

Michail Bulgakow: Hundeherz, Die verhängnisvollen Eier, übersetzt vom Russischen ins Japanische, zusammen mit Valerij Gretchko

20. フリードリヒ・デュレンマット『ギリシア人男性、ギリシア人女性を求む』白水社、2017年、全228頁

Friedrich Dürrenmatt: Grieche sucht Griechin